

特定事業者排出量削減報告書

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都市下京区四条通柳馬場東入立宛東町7番地								
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	京都信用金庫 理事長 増田 壽幸								
特定事業者の主たる業種	金融業(信用金庫)								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))								
計画期間	平成20年4月 ~ 平成23年3月								
基本方針	平成19年度を基準にして、計画期間中に3.6%以上の温室効果ガス排出量の削減を目指す。								
推進体制	平成21年12月から「エココミュニティ推進委員会」と推進母体をグレードアップし、CO <sub>2</sub> 削減に向けての計画策定と進捗管理。								
	環境マネジメントシステム名称	KES・ステップ2							
	適用範囲	全店舗							
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	平成22年6月1日							
	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20~22	全店空調	ウォームピズ、クールピズの既設時期を中心とした熱エネルギーの削減を図る						
	平成21~	全店車輛	エコドライブの推進により、ガソリン使用量の削減を図る						
温室効果ガスの排出量等	平成23年度	銀閣寺、桂	太陽光発電の導入						
	排出区分	基準年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度(実績) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	3,894.1 t	3,754.1 t	-3.6 %	3,745.9 t	-3.8 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	3,894.1 t	3,754.1 t	-3.6 %	3,745.9 t	-3.8 %			
実績に対する自己評価	KES活動を通して、本店ビルを中心にCO <sub>2</sub> 削減に取り組んだ結果、成果が表れた。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)		
	全建物	二酸化炭素換算 (延床面積)	0.050 t-CO <sub>2</sub> /㎡	0.048 t-CO <sub>2</sub> /㎡	-4.0 %	0.048 t-CO <sub>2</sub> /㎡	-4.0 %		
		二酸化炭素換算 ( )			%		%		
		二酸化炭素換算 ( )			%		%		
実績に対する自己評価									
地球温暖化対策買取量	対策等の区分	目標年度(計画)				報告年度(実績)			
		取組量等				取組量等			
		(二酸化炭素換算)				(二酸化炭素換算)			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(削減量)	t	(整備面積)	ha	(削減量)	t
	市内産の木材の利用	(利用量)	㎡	(削減量)	t	(利用量)	㎡	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	30.0 t	(削減量)	10.0 t	
削減量等合計	t				10.0 t				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・KESステップ2の認証取得 ・電動バイクの取り入れ ・地域の清掃 ・環境省が呼び掛けるライトダウンキャンペーンに参加 ・棚田の保全活動 ・自然エネルギーの導入								
特記事項	平成20年度にエコポイントモデル事業によるカーボンクレジットを30t購入。今年度、その内10tをオフセット。								

注1 該当する□には、レ印を記入してください。  
 注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。  
 注3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(製造品出荷額、延床面積、走行距離等)を記入してください。  
 注5 「地球温暖化対策買取量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度(計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度(実績)」欄には実績の累計を記入してください。  
 注6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実施活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。  
 注7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

